

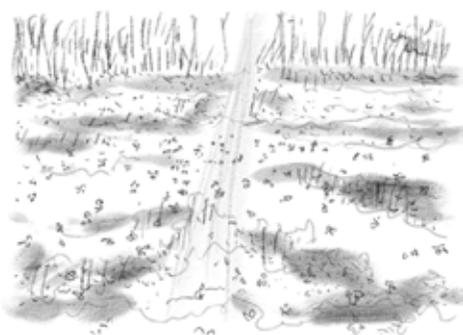
もう少し草花に目を向けてみよう。木もそうだが草花についてはほとんど見分ける知識がなかったのだが、それでも植物図鑑を頼りに日々見ていると何となくわかってくる。なぜかという草花の中には明らかに集団をつくっているものがあり、どんなに節穴であつても目に入ってくるものがあるからだ。

まず目についたのはスミレだつた。最初の年の春だつたと思うが、ヤチダモやミズナラ、ヤナギの木々に囲まれて少しひらけたところがあるのだが、気温が徐々に上がってくると一面丈の低い草が緑色の敷物のようになり、そのうち小さな紫色の花が咲き始めた。木々も葉をつけ始め、その木漏れ日がスミレにスポットライトを当てるようになる。家のあるところからは丁度対角線の角にあたり離れているのだが、そこに行くのが楽しみになる。早々に妻と「すみれヶ原」と名付けた。

次に目についた集団はヨモギだつた。「すみれヶ原」の隣にあつたせいもあるが、特徴的な葉のかたちだし、葉にさわさわと手を触れて鼻に近づけるとヨモギ餅の香りがするのですぐわかる。まあ、その程度ですかと笑られそうだが、色やかたちだけでなく、香りや場合によっては味覚なども使つてなんとか敷地に生えている植物を理解しようとしていたのだ。ヨモギの集団はもう一箇所あるのだが、それを認識するのは少し後になってからだつた。なんせ自分の敷地といつても一面木と草に覆われたところを隅々まで足を運ぶのは結構たいへんなのだ。

ヨモギの集団から先、少し日当たりの良いところに出るとセイタカアワダチソウの集団に出会う。稲穂のようなかたちに黄色い花をつけるので、これは見分けがすぐつく。このセイタカアワダチソウは、根から周りの植物の成長を邪魔する物質を出し勢力を拡大する厄介者らしい。ただ、勢力が拡大しすぎると自分が出す物質で成長が抑えられてしまうという。セイタカアワダチソウを蓄のうちに収穫して乾燥させるとデトックス効果のある入浴剤になるとの情報もあり、最初の年にせっせと刈り取つたせいもあるかもしれないが、三、四年たつた頃には数が減つてきたような気がする。そのかわり増えてきたのがススキである。これも非常にわかりやすいのは良いのだが、セイタカアワダチソウに負けないくらい勢力を拡大する力があつて、あつと言うまにススキが原になつてしまう。

敷地の真ん中あたりは、特に水気が多く分け入るとズブっズブっと足が沈む状態で、木もほとんど生えていない。その中で元気にしていたのはアシとガマだつた。ガマは種の塊である「穂」がお祭りの屋台でみるフランクフルトそっくりなので私でも見分けがつく。この集団が湿地感を高めていたのだが、側溝を復活させ扇状地をつくつていた水をそちらに導くようにしたら急に数が減つてきた。三年ほどたつたら、側溝沿いのわずかに水気が残るところに数本穂をつけるだけになり、その翌年にはまったく目にしなくなつてしまった。それはそれで何か寂し感じになるのは身勝手そのものなのだが。



第二十五回 この土地の植物たち (二)

アシとガマが姿を消していくのと入れ替わりに目に入ってきたのは、フキと野菊だった。それらはアシやガマは丈が高いのでもともとその影に生えていたのかも知れないが、水気が引くのと同時に日の光もたくさん当たるようになり勢力を増してきたように思われる。フキと野菊は今のところお互いに侵食し合うようなことはない。ただフキは家を建てる時に水はけの良い場所にするためにたつぷり積み上げた碎石だらけのところに徐々に姿をあらわし、いつのまにか群落をつくってしまった。土などまったくなく他に競争相手の植物がない場所では健気に仲間を増やしてくれたことで殺風景な場所が変わってきたのは嬉しかった。それは単に植物が生えてきたというだけではなかった。フキの大きな葉が冬になり朽ちて徐々に碎石だらけのところに土らしきものができてきたのだ。数年経つとフキだけでなく木々の落ち葉も加わり、風で飛ばされてきたいろいろなタネが小さな芽を出すようになってきた。五年経つて碎石のところにブドウの生垣をつくりたくくなって穴を掘ったら、上部三センチメートルくらいに黒々としたものができて、いろいろな植物の根がからまつていたのには驚かされた。

最初のフキの群落のすぐ傍に、不思議なサークルを発見した。春の早い時期にオノコと思われる小さな枯れ木を囲むように正確に定規で計ったような円形の緑の群落ができるのだ。時期がたつとそれにオレンジ色の特徴的な花が咲くことでヤバカンゾウの群落だとわかった。敷地の他には見られないそこだけの群落だったのだが、隣で勢力を増してきたフキがそのサークルに侵入し大きな葉をつけるようになり、だんだん元気がなくなつたのかここ数年花を見ない。

野菊の群落は敷地の丁度中央あたりはかなり広い範囲であり、秋になると白や薄紫の花がそこら一面に咲くのは壮観だった。しばらくするとそこにも小さな群落をつくるものが出てきた。ハンゴンソウという植物で妙に丈が高くなりてっぺんに黄色の花を傘状にたくさんつけるのでよく目立つ。最初は小さな群落だったのがだんだん大きくなり、あちらこちらに分家して勢力を拡大しつつある。

この他にも小さいけれどミズバショウやエンレイソウの群落が確認できたが、それらは日陰に育つのであまり競合相手がないのか、今の所はそれぞれに平和に暮らしている。

私たちがこの土地に住み始めて五年しか経っていないのだが、自分たちが暮らしやすいようにと水路を調整したことで、植生が大きく代わり、景色もほとんど変わってきている。条件が変わるとそこに適した植物が競って自分たちの場所をつくりはじめる。そのなかで丈が高いつか葉が大きいとか、過酷な条件にも適応できるとか優位な資質をもつたものが勢力を増してくる。ただ、セイタカアワダチソウのように勢力を増しすぎて自滅するものもある、そしてそのあと、じっと機会を伺っていたものが台頭する。かれらは常に動いているのだ。それも短期間にかなりダイナミックに。

